

Jazz Guitar Lesson

For Jazz Beginner 【18】



Mistletoe Music School

<YouTube 動画URL>

<https://youtu.be/qFGb9shkh3k>

ロックギタリストのための

ジャズギター入門シリーズ！【18】

ジャズに初めて挑戦する方を応援する「ジャズギター入門シリーズ」第18回目。今回は楽器を置いてジャズの聴き方の勉強をしましょう。ジャズでは「音で会話する」とよく言います。ジャズ用語ではインタープレイというのですが、一般的にはコール&レスポンス（呼び掛けと応答）という言葉の方が聞き慣れているかと思います。相手の音を聴いて、音楽的なアイデアを拾い上げ、音で反応していきます。一昨年公開されたQueenの映画「ボヘミアン・ラプソディ」でも、ステージのアーティストと観客が一体になっていたシーンがありましたね。ジャズではそんな音の会話を即興演奏で行なっています。

— Autumn Leaves —

今回ご紹介するのは、Jim Hall(gt)とRon Carter(ba)の「Alone Together」です。1972年のライブ録音、当時としては珍しかったギターとベースのDUO盤です。デュオという事で、密な音の会話を楽しめる名盤です。アルバム最後に収録されている枯葉の00:48～あたりから、Jim Hallのソロ 1 コーラス目と、2 コーラス目を取り上げます。音の会話を楽しむということでJim Hallだけを採譜しても意味が分からない箇所がありますので、今回はRon Carterも採譜しました。ベースの音域は通常、ヘ音記号表記ですが、分析し易く、ギターでも演奏出来るように 1 オクターブ上げたト音記号で表記しています。MIDI音源とJim Hallのフルコーラスソロはこちらです (<https://youtu.be/GQ4ICZzF53w>)



Autumn Leaves

Mistletoe Music School

♩ = 155

JIM HALL
Gm7 G7

RON CARTER
Gm7 G7

1拍裏から3拍目へアプローチするリズム

2ND CHORUS (JIM HALL SOLO)
Cm7 F7 B♭M7 E♭M7

3拍裏から1拍目へのアプローチするリズム

D音を出した瞬間、RonのD♭音とぶつかったことに気付く

JIM HALL
Am7♭5 D7 Gm7 G7

RON CARTER...
Am7♭5 D7 Gm G7

GmをG7と捉えて裏コードであるD♭7を演奏

1～6小節目のリズムによる会話をもう1度

The diagram illustrates two rows of guitar chords. The top row features four blue boxes, each containing a chord name, a musical staff with a single note, and a guitar TAB with a single fret number. The bottom row features five red boxes, each containing a chord name, a musical staff with a single note, and a guitar TAB with a single fret number. Orange arrows point from the blue boxes to the red boxes.

Chord	Staff Note	TAB Fret
Cm7	B $\flat$ 4	7
F7	C $\sharp$ 4	6
B $\flat$ M7	C $\sharp$ 4	4
E $\flat$ M7	B $\flat$ 4	5
Cm7	B $\flat$ 4	3
F7	C $\sharp$ 4	6
B $\flat$ M7	C $\sharp$ 4	7
E $\flat$ M7	B $\flat$ 4	15
E $\flat$ M7	B $\flat$ 4	13

The image shows a musical score for guitar in B-flat major. The first system contains measures 14-17, and the second system contains measures 18-21. Chords are indicated above the staff: Am7 b5, D7, Gm, and Gm. The guitar tablature is shown below the staff, with some measures highlighted by blue and red boxes. Arrows point from the blue boxes in the first system to the red boxes in the second system, indicating a sequence of chords.

リズムモチーフ

RonのD音ペダルに反応してD音へチェンジ

The image displays a guitar score with two systems. The first system features four measures: Am7 b5, D7, Gm, and G7. The Am7 b5 measure is highlighted with a blue box, showing a melodic line on the treble staff and a corresponding tablature on the bass staff. The D7 measure is also highlighted with a blue box, showing a melodic line on the treble staff and a corresponding tablature on the bass staff. The Gm measure is highlighted with a blue box, showing a melodic line on the treble staff and a corresponding tablature on the bass staff. The G7 measure is highlighted with a blue box, showing a melodic line on the treble staff and a corresponding tablature on the bass staff. The second system continues the melody and includes a red arrow pointing to a specific note in the Am7 b5 section.

D音（Keyの5度音）のペダルと1拍半のリズム（2小節で1セット）

前4小節のアイデアを継続中!!

お互いがE♭音 (3rd) へ進行! 呼吸バッチリ!

リズムモチーフ

Chords: Cm7, F7, B♭M7, E♭M7

Rhythm motif: 1 & 2 & 3 & 4 & 1 & 2 & 3 & 4 &

Guitar TAB: 6 8 7 8 (8) 7 6 5 3 3 7 3 (3) 6 7 6 8 7 10 7 10 (10) 7 8 7 8 (8)

Bass TAB: 8 8 (8) 8 (8) 10 8 10 7 7 8 (8) (8X) 6

D音 (Keyの5度音) のペダルと1拍半のリズム

3度+7度でコードチェンジをしっかり表現

テーマ的な
大きな歌心

Chords: Am7♭5, D7, Gm, G♭7, Fm7, B♭7

Guitar TAB: 7 13 12 7 11 10 7 8 7 11 10 7 9 8 5 (8) 7 6 7 5

Bass TAB: 5 5 x 5 5 10 10 10 9 10 8 10 11 13 13

クロマチックアプローチ

メロディ重視 (RonのD♭は無視)

Chords: E♭7, D7, Gm, G7, Gm

Guitar TAB: (8) 6 5 (5) 5 5 6 7 8 6 8 9 10 8 9 11 12 9 10 13

Bass TAB: 11 10 13 10 12 12 10 9 9 (9) 9 (9) 9 6 7

またしても、GmをG7と捉え

裏コードであるD♭7を演奏

アイデアいっぱいのセクション

Ronは変化に富んだ様々な伴奏を行なっている

Jim Hallは、細かい音符を多用していますが
次の小節の1拍目へしっかりと着地しています

320 CHORUS (JIM HALL SOLO)

Chords: Cm7, F7, B♭M7, E♭M7

Annotations: **1拍半のリズム**, **スライド**, **B♭7的 (E♭M7への進行感を強める)**

TAB: 101310, 11, 12, 13101110, 13-12-10, 8, 7, 6, 7, 8, 7, 8, 6, 5, (5), 8, 7, 7, 8, 7, 6

Chords: Am7♭5, D7, Gm, Gm7

Annotations: **ここからG7でDiminish Arpeggio**, **意図的に6th音へ着地、その後はMelodic minor**, **裏拍のリズム**, **複音**, **ハーモニクス**

TAB: 5, 7, (7), 6, 5, 4, 6, 4, 4, 5, 4, 2, 5, 2, 4(4), 7, 4, 5, 8, 5, 7, (7), 10, 7, 9, (9), 2, 10, 9

モチーフを次々に展開

Chords: Cm7, F7, B♭M7, E♭M7

Annotations: **1拍目をしっかりと打ってビートを安定させる**

TAB: 8, 7, 11, 5, 11, 1013147, 811, 8, 7, 8, 6, 7, 3, 5, 7, 3, 5, 7, 7, 4, 6, 8, 7, 6, 5, 4, 7, 6, 5, 3

音楽の神が舞い降りた!!

長い音符で段落感を作っている

テーマ的に演奏
次のセクションへ向かう感

Jimの音符を聴き
全音符を演奏
一緒に段落感を作っている

Jim Hallが頻繁に使用する型

A7で演奏

テーマ的演奏

即興で2拍3連のリズムが一致した極上の音世界!!

F7 テーマ的演奏

音楽の神が舞い降りた!!

Jimが和音を裏拍多めでリズムに演奏しているの、

Ronは対比となるようにリズムを安定させている

ここで長い音符を使用することで次のコーラスでの
ウォーキングベースが一段と際立って聞こえるようになる

－ 音で会話するための2つの要素 －

Jim HallとRon Carterはとても高度なレベルで音の対話をしていますが、このような演奏を目指すために▼コード進行をしっかり覚えること▼自分の演奏への意識のパーセンテージを下げるのが重要になります。次のコードが分からなかったら、相手の演奏を聴く余裕はありません。また、「このフレーズを弾こう！」なんて考えていたら、相手の音に対して反応している演奏にはなりませんね。演奏中、沢山の演奏技法の中で何をチョイスするか？はその場の感覚で行っています。音楽の流れに身を任せている状態でも良い選択が出来るように毎日の練習はしっかりと行い、本番では全てを忘れ、耳からの情報に意識を向けます。ただ、その境地に至るまでも沢山のステージ経験が必要なことをジャズビギナーの方も知っておいてください。一流のプロも皆、沢山練習して、ステージでは上級者に沢山の迷惑をかけて、多くの失敗を糧に上達してきました。今でも勉強の毎日です。徐々に音で会話するゆとりが来ていきますので、コツコツ練習を頑張りましょう。

▼投げ銭応援箱 <https://www.paypal.me/mistletoepay/1000>

Paypalを使用した投げ銭箱です。額は自由に変更できます。まだまだ制作頑張ります。応援、宜しくお願い致します。